

# ごみゼロネット推進会（第19回）議事録

2010/3/17 改訂

開催日： 2010年（H22年）3月 1日（月）10:00～12:00

場所： ウエスト

出席者： 平林、市原、加賀谷、桐生（作成）

議題：

## 1. HDMシステム実証試験の陳情後の活動方針について

行政から陳情を聞いて「検討します」といわれた後をどう進めるかを検討した。

- (1) 焼却炉を7年後に建てる立場にある行政はHDMが良いかも知れないが、行政からはやれない」のが実態のようである。行政への期待は土地提供程度に止め、後は業者を仲間に入れ、議員、市民の共同体として進めるのが現実的である。
- (2) 賛成派の市議会議員になるべく多数参加願って、**実行委員会**方式で進めてはどうか。
- (3) 特定の議員にお任せすると政治的に反対の方たちの賛意を得にくい。委員長または幹事は加藤氏が好適。
- (4) 中規模程度になればPFI方式が現実的になるが、日量1t/日程度なら既存のNPOの一つの活動として進めてはどうか。
- (5) 次回、陳情の報告と共にこの問題を更に検討したい。

## 2. フォレスト社竹井氏との会談で検討されるべき事項（平林）

明2日、武蔵小金井駅付近で加藤氏と共に フォレスト社の竹井氏に会い、 HDMに関する課題を討議する。その際の課題を整理する。

- バクテリアやウィルス等の病原体や、ゴキブリ、蠅等の小動物の巣窟になることはないか。そのようにならないための対策は如何に。
- 夏、冬といった季節変動に対する環境管理の実態は如何に。
- HDM自体は発酵熱により生ごみの水分を蒸発させるから加熱エネルギーは不要だが、攪拌作用や給気にエネルギーを要する。トータルとして焼却炉よりCO<sub>2</sub>発生量が少ないが、数値的に正確に表現できるか。
- 2010/1/10の国分寺エルホールでのシンポジウムでは竹井氏は「内部温度50℃で、生分解プラスチックの結び目等を分解するには若干温度が低い(60℃は必要)ため、開袋機を使用して生ごみだけ供給する」とっていた。(桐生)久喜宮代のサイトでは内部温度70℃と出ている。それにしては水蒸気が目視できないということと矛盾がある。(加賀谷)
- 1t/日の菌床面積50m<sup>2</sup>に対し、実際に必要となる全面積は如何に。

## 3. その他の話題

- 小金井市の堆肥化工場では、給食残材の堆肥は農家が引き取るが、一般家庭から出て拠点収集された生ごみは農家が引き取らないために、理解に苦しむ複雑な物流処理をされている。(平林)
- まだ限られた範囲の議員しか説得できていない。今後、公明党や自民党の議員にも説得を広げたい。(市原)

以上

次回打合せ 日時： 3月22日（月）14:00～16:00 / 場所： 公民館本館（福祉会館）

議事： 小金井市議会ごみ処理施設建設等調査特別委員会におけるHDM実証試験計画  
陳情の満場一致採択後の行動計画検討



